

附則 則 陸軍監獄官特別任用令 明治二十六年十月
第九條 明治二十一年勅令第十號ニ依リ理事試補主理試補タルノ資格ヲ有シ本令施行
ノ際現ニ理事試補又ハ主理試補タル者ハ別ニ試験ヲ用ヰス直ニ之ヲ本官ニ任用スル
コトヲ得

第十條 司法官試補タルノ資格ヲ有シ判事檢事及他ノ高等文官ノ職ニ在ル者及在リタ
ル者ハ本令施行後三年間ハ直ニ理事又ハ主理ニ任用スルコトヲ得
第十一條 明治二十一年勅令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○陸軍監獄官特別任用令 明治二十六年十月
勅令第九十三號

朕陸軍監獄官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄官特別任用令
第一條 陸軍監獄長ハ理事、陸軍尉官又ハ陸軍監督補ヨリ之ヲ選任ス

第二條 陸軍監獄書記ニシテ滿五年以上一級俸ヲ受ケ學識經驗アル者ハ文官高等試験
委員ノ銓衡ヲ經テ陸軍監獄長ニ任スルコトヲ得

第三條 陸軍監獄書記及陸軍監獄看守長ハ陸軍下士文官採用規則ニ定ムル所ノ資格ア
ル者又ハ錄事ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第四條 陸軍監獄看守ニシテ滿五年以上其ノ職ヲ奉シ學識經驗アル者ハ文官普通試験
委員ノ銓衡ヲ經テ陸軍監獄書記又ハ陸軍監獄看守長ニ任スルコトヲ得

第五條 陸軍監獄看守ノ採用規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六條 陸軍監獄書記及陸軍監獄看守長ハ本年勅令第四百四十二號陸軍監獄官官制施行
ノ際ニ限リ第三條ノ規程ニ拘ラス從來陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士ニシテ獄務ニ經驗
アル者及其他ノ判任官ヨリ選任スルコトヲ得

第七條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

○陸軍下士文官採用規則 明治二十年十二月
勅令第八十三號
朕陸軍下士文官採用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍下士文官採用規則
第一條 陸軍下士ニシテ左ニ掲クルモノハ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得 (第二十三勅令
第八十六號ヲ
以テ各項) 改正

一 戰役若クハ公務上ノ傷痕疾病ニ因リ免官シ尙文官ノ勤務ニ堪ヘ且伎倆證明書
ヲ所持スル者

二 現役七箇年以上服役滿期ノ下士ニシテ伎倆證明書ヲ所持スル者

第二條 陸軍下士ハ本人ノ請願ニ因リ前條恰當ノ者ハ試験ヲ要セスシテ判任官トナル
コトヲ得 (第二十三勅令第八十
六號ヲ以テ本條改正)

第三條 海軍省ヲ除ク外各官廳ニ於テ判任官ヲ任用スルニハ少クモ五人ニ付一人ハ

陸軍下士官請願者ヲ以テス可キモノトス

第四條 文官タル者ハ服役滿期前一箇月間又滿期若クハ免役後三箇月間ニ之ヲ請願ス可シ(二十三年勅令第八十六號ヲ以テ改正)

第五條 請願者ニ於テ教官技術官タルシヨト望ム者アルトキハ之ヲ採用セントスル官廳ニ於テ相當ノ試験ヲ施行スルコトヲ得

第六條 請願者ノ名簿ハ本人請願ノ順序ニ從テ調製シ之ヲ陸軍省ニ備置ク可シ

第七條 請願者ノ採用ハ其同年内ニ係ルモノハ第一條各項ノ順序ニ從ヒ其同項内ニ於テハ服役時日ノ多キ者ヲ採用シ其服役時日ノ同シキ者ハ請願時日ノ順序ニ從ヒ採用ス可シ(二十三年勅令第八十六號ヲ以テ本項追加)

第八條 各官廳ニ於テ請願者ヲ採用スルトキハ陸軍省ニ照會シ直ニ本人ヲ其廳ニ呼出ス可シ(二十三年勅令第八十六號)

第九條 陸軍省ニ於テ前條ノ照會ニ依リ第七條ニ照シ請願者ノ氏名及履歷書ヲ其官廳ニ交付ス可シ

第十條 請願者ニ於テ其請願ヲ取消セザルニ欲スル者ハ陸軍省ニ届出可シ

第十一條 本則施行ニ要スル細則及伎倆證明書ノ規定ハ陸軍大臣之ヲ定ム可シ(二十三年勅令第八十六號)

○陸軍下士官採用細則(二十一年二月)

陸軍下士官採用細則左ノ通定ム

第一條 本則ニ採用規則ニシテ第一項ニ該當スル者ハ第一書式第二項ニ該當スル者ハ第二書式及第三書式ニ據ルヘシ

第二條 本則第五條ニ因リ教官技術官タルシヨト望ム者及某官廳ニ限リ奉職センコトヲ望ム者ハ其志願ノ屬名ヲ願書中ニ記載シ又教官技術官志願ノ者ニ在テハ其習得セン學術ヲ履歷書中ニ記載シテ差出ス可シ

第三條 本則第一條ノ資格ヲ有スト雖モ服役以來左ノ項目ニ觸ル者ハ請願スルヲ得ス

一 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

一 賭博犯ニ付懲罰ニ處セラレタル者

第四條 本則第一條ニ因リ請願スル者アルトキハ所管長官又ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其請願書類ヲ審査シ陸軍大臣ニ進達ス可シ

第五條 本則第五條ニ因リ各官廳ニ於テ試験ヲ爲セントキハ其試験ノ科目及ヒ合格不合格ノ旨ヲ直ニ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第六條 各官廳ニ於テ請願者ヲ採用セシ上ハ直ニ其官等ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第七條 教官技術官タルシヨト望ム者受験ノ爲メ官廳ニ往復スル旅費ハ總テ自辦タルヘシ

第八條 本則第十條ニ因リ其請願ヲ取消サント欲スルトキ又ハ請願者ノ身上ニ異動ヲ生シ或ハ轉居轉籍若クハ處刑等ニテ履歷上改正ヲ要スルコトアルトキハ其旨ヲ詳記シ最初願出ノ手續ニ因リ届出ツ可シ

○海軍准士官並服役満期下士判任文官ニ任用方明治二十年十二月 勅令第六十五號
朕海軍准士官並服役満期下士判任文官ニ任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
海軍准士官並服役満期ノ下士ハ普通試験ヲ要セス海軍省遞信省「鐵道局」ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

○東京電信學校ノ卒業生遞信技手ニ任用方明治二十一年五月 閣令第八號
東京電信學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ事務練習ヲ要セス直ニ遞信技手ニ任スルコトヲ得

○東京郵便電信學校卒業生任用方明治二十四年九月 勅令第九十二號
朕東京郵便電信學校卒業生任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
東京郵便電信學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ文官普通試験及事務練習ヲ要セス直ニ郵便電信ニ關スル判任官ニ任用スルコトヲ得
但本令ニ依リ任用セラレタルモノハ普通試験ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

○會計検査官任用資格明治二十二年六月 勅令第八十號
朕會計検査官資格ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院法第六條ニ依リ會計検査官ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス
第一 年齡滿三十歲以上ノ者
第二 五年以上検査官補又ハ五年以上他ノ高等行政官タル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

○検査官補特別任用方明治二十五年七月 勅令第六十一號
朕検査官補特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 會計検査院屬ニシテ五年以上検査院ニ奉職シ現ニ三級以上ノ俸給ヲ受ケ功績顯著ナル者ハ高等試験ヲ要セス高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ検査官補ニ任用スルコトヲ得

第二條 本令ニ依リ任用シタル検査官補ハ高等試験ヲ經ルニアラサレハ検査官及他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

○陸地測量官任用規則明治二十二年三月 勅令第三十五號
朕陸地測量官任用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量官任用規則
第一條 陸地測量官ハ陸地測量手中其任ニ適スル者ヲ選シ陸地測量部修技所ニ於テ二箇年

以上高等ノ學科ヲ修業セシメ卒業シタル者ヲ以テ之ニ任ス

第二條 陸地測量部ハ陸地測量部修技所生徒ノ卒業シタル者ヲ以テ之ニ任ス

第三條 本則ニ依リ陸地測量官ニ任セラレタル者他ノ技術官ニ轉任セントスルトキハ技術官任用ノ例規ニ依ル但他ノ技術官ヨリ轉任シタル者ハ此限ニアラス

第四條 本則第一條第二條ニ掲クルモノ、外技術官其他學術技藝優等ノ者ニシテ陸地測量部ニ於テ實地試業ノ上適當ト認ムルトキハ陸地測量官ニ轉任セシメ若クハ任用スルコトヲ得

第五條 本則施行ノ前陸地測量部ニ出仕スル技術官陸軍屬又ハ傭員ニシテ陸地測量事業ニ從事シ學術技藝優等ナル者ハ陸地測量官ニ轉任セシメ若クハ任用スルコトヲ得

○府縣立師範學校長特別任用令 明治二十六年十月 勅令第九十三號

沿革略記 明治二十四年八月勅令第七十三號ヲ以テ府縣立師範學校長特別任用令ヲ定ム○二十六年十月勅令第九十三號ヲ以テ前令ヲ改正ス

朕府縣立師範學校長特別任用令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣立師範學校長特別任用令 府縣立師範學校長ハ高等師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ學位者クハ學士ノ稱號ヲ有シ一箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シタル者又ハ三箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シ現ニ三十圓以上ノ月俸ヲ受ケル判任官又ハ判任官待遇ノ者ニ限リ試験ニ要ス文官高等試験

委員ノ銜ヲ經テ任用スルコトヲ得

○帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ雇外國人ヲ教官ニ任用方 明治二十六年九月 勅令第九十六號

朕帝國大學及文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

○營林主事補及森林監守任用令 明治二十六年十月 勅令第九十四號

沿革略記 明治二十年十二月勅令第八十二號ヲ以テ營林主事補及森林監守任用方ヲ定ム○二十六年十月勅令第九十四號ヲ以テ營林主事補及森林監守任用令ヲ定メ二十年勅令第八十二號ヲ廢止ス

朕營林主事補及森林監守任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

營林主事補及森林監守任用令 第一條 營林主事補及森林監守ハ農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

滿四年以上營林主事補ノ職ニ在リタル者ハ文官普通試驗ヲ要セス山林事務ニ關スル判任官ニ任用スルコトヲ得

滿二年以上森林監守ノ職ニ在リタル者ハ營林主事補ニ任用スルコトヲ得

第二條 本令施行ノ際營林主事補又ハ森林監守タル者ニシテ引續キ其ノ職ニ在ル者ハ文官普通試驗ヲ要セス大小林區署ノ判任官ニ任用スルコトヲ得

附則

第三條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十年勅令第八十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○營林主事補及森林監守特別任用規則 二十七年二月第五號

營林主事補及森林監守特別任用規則左ノ通相定ム

第一條 明治二十六年勅令第九十四號營林主事補及森林監守任用令ニ據リ營林主事補及森林監守ニ選任スヘキ必要アルトキハ第二十条ニ掲クル者ヲ除クノ外左ノ科目ニ就キ試驗ヲ行フ

- 一 現行法令講述(刑事及林務ニ關スルモノ)
- 二 作文(片假名交リ文及往復文)
- 三 筆算(算數學全部)
- 四 珠算(加減乘除)
- 五 筆寫(楷行)
- 六 簿記
- 七 國語

本規則

第一條 營林主事補及森林監守ノ任用ハ本規則ニ依リテ之ヲ行フ

第二條

但第二科目中片假名交リ文及第三科目ハ森林監守受驗者ニ之ヲ省キ第六以下ノ科目ニシテ特別ニ必要アルトキ又ハ受驗者ノ望ニ依リ受驗者ヲシテ其内ニ就キ一若クハ二以上ヲ選擇セシメ之ヲ試驗ス

第二條 年齡滿二十年以上滿四十年以下ノ男子ニシテ身體健全ナルモノハ前條ノ試驗ヲ受

クルコトヲ得但左ノ諸項ノ一ニ該當スルモノハ此限ニアラス

一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニアラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三 破産者又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘザル者

第三條 試驗ハ大林區署長ニ於テ署員二名以上ヲ選定シ委員ヲ命シテ之ヲ行ハシム

第四條 試驗ノ期日及出願期日ハ大林區署長之ヲ定メ試驗期日二十日前便宜ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第五條 受驗者ノ人員ハ採用スヘキ人員ノ十倍ヨリ少カラサル數ニ限ルコトヲ得但此場合ニ於テハ前條ノ公告共ト其人員ヲ公告スヘシ

第六條 試驗ヲ受ケント欲スル者ハ大林區署長ノ指定シタル期日迄ニ履歷書及第七條ノ證明書ヲ添ヘ願書ヲ當該大林區署ニ差出スヘシ其願書履歷書ハ第一號及第二號書式ニ據リ認ムヘシ

第七條 試驗出願者ハ身分職業年齡及免役延期豫備徵員一年志願兵等ニ關スル事項ヲ證明シタル市區町村長ノ證明書ヲ要ス

第八條 試驗問題ハ大林區署長及試驗委員之ヲ定ムルモトス

第九條 試驗ノ日割場所及受驗人心得ハ大林區署長之ヲ定メ各受驗人ニ知悉セシムヘシ

第十條 試驗ノ問題ハ林務ニ關スル事項ヲ參酌シ專ラ實務ニ適應セシムルコトヲ要ス

第十一條 試驗ハ筆寫及口述ノ二種トス口述試驗ハ筆記試驗ヲ終リタル後之ヲ行フ

口述試験ハ第一條第一項ニ就キ之ヲ行フ
 第十二條 受験人ハ其試験ヲ受クルノ際受験人心得及試験委員ノ命令ヲ遵守スベシ犯ス者ハ當該試験委員ヨリ直ニ退場ヲ命スヘシ其退場ヲ命セザレタル者ハ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス
 第十三條 不正ノ方法ヲ以テ合格シタルトキハ其效ナキモノトス
 第十四條 前條ニ依リ合格ノ效ヲ失ヒ又ハ不正ノ方法ヲ以テ合格セント企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス
 第十五條 履歴書中事實ヲ隱匿シ又ハ之ヲ偽リタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
 第十六條 試験ヲ經タル各科目ノ點數及其全體ノ效果ニ關シ合格者ヲ定ムルハ大林區署長及試験委員ノ議定スル所ニ據ル
 第十七條 試験合格者ノ氏名ハ其試験ヲ終リタル日ヨリ七日以内ニ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
 第十八條 本則ニ依リ試験ヲ受ケテ合格シタル者ハ大林區署長ヨリ營林主事補又ハ森林監守試験合格證書ヲ付與スヘシ
 第十九條 前條ノ試験合格證書ヲ有スル者ハ内ヨリ當該大林區署ノ需用ニ應ジ營林主事補又ハ森林監守ニ任用スルモノトス
 但試験合格證書有效ノ年限其日附ヨリ滿五年トス
 第二十條 左ニ掲ケル者ハ試験ヲ要セス營林主事補及森林監守ニ任用スルコトヲ得但第一項乃至第三項ニ該當スルモノニシテ滿四十年以上ノ者及第四項第五項ニ當該スルモノニシテ二十年未滿又ハ滿四十年以上ノ者ハ此限リニアラス
 一 前ニ判任文官ヲ勤メタル者
 二 陸軍滿期ノ下士及陸軍滿期ノ上等兵ニシテ下士適任證書ヲ有スル者
 三 滿二年以上巡査又ハ看守ヲ勤メタル者
 四 滿二年以上府縣立尋常師範學校尋常中學校公立小學校ノ教員ヲ勤メタル者
 五 林務ニ關スル各官職ノ職員トナリ滿二年以上勤メタル者
 第二十一條 本則ニ掲ケルモノ、外試験ニ關スル手續ハ大林區署長ノ定ムル所ニ據ル
 書式略ス

○三等郵便局長任用方明治二十年十二月勅令第六十六號

朕三等郵便局長任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 三等郵便局長ハ其地ニ在住シ相當ノ資産アル者ヲ選任スルノ必要アルヲ以テ遞信大臣別ニ採用規則ヲ定メテ之ヲ選任スヘシ但該規則ニ依リ選任シタル三等郵便局長ハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

○三等郵便局長採用規則二十一年四月勅令第二號 明治二十年十二月勅令第六十六條ニ據リ三等郵便局長採用規則左ノ通之ヲ定ム

三等郵便局長採用規則
 第一條 三等郵便局長ハ左ノ各款ヲ具備スル者ヨリ之ヲ採用スヘシ
 第一款 其三等郵便局所在地ニ在住スル者
 第二款 實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者
 但滿三年以上郵便又ハ電信事務ニ従事スル官吏ハ記名公債證書ヲ以テ之ニ充用スルコトヲ得(二十三年遞信省令第十號)
 第三款 日常ノ算筆ニ通スル者
 第四款 別ニ定ムル三等郵便局長服務規約ヲ遵奉スル者
 第五款 年滿二十年以上ノ男子
 第二條 誠實ニ職務ヲ奉シタル三等郵便局長老年又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在官中死ビセシトキ其嗣子又ハ相續人タル男子年滿十六年以上ニ及フモノハ第一條第五款ノ制限ニ拘ハララス特ニ採用スルコトアルヘシ
 第三條 非戸主ニシテ其戸主實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者保證スルニ於テハ其本人ノ資産第一條第二款ニ適合セザルモ特ニ之ヲ採用スルコトアルヘシ

○北海道廳管下三等郵便局長採用方（明治二十二年四月五日勅令）第一條第二款ノ制限ニ滿テサル者ト雖採用スルコトアルヘシ（明治二十六年四月十二日勅令）及島地ノ三字ヲ追加ス

○三等郵便局長採用ノトキ郡區長戶長處辨方（明治二十一年五月九日勅令）第三條ノ規定ニ依リ之ニ應シ便宜處辨候様豫メ郡區長戶長ニ達示スヘシ

○三等郵便局長採用手續（明治二十一年五月四日勅令）依リ之ヲ執行スヘシ

第一條ニ三等郵便局長ノ採用ヲ要スルトキハ左ノ手續ニ依リ之ヲ執行スヘシ

第一條ニ三等郵便局長ノ採用ヲ要スルトキハ左ノ手續ニ依リ之ヲ執行スヘシ

有無ヲ取調履歷書（書式）ヲ添ヘテ之ヲ推薦スヘシ

但辭職出願者又ハ死亡者若クハ犯罪ニ依リ官職ヲ失ヒタル者アルトキ後任ヲ要スル場合ヲ除ク外ハ本大臣ノ指揮ヲ待テ後撰出スヘシ

第二條ニ選信管理局長ハ時宜ニ依リ三等郵便局長ノ撰出ヲ郡區長ニ囑托スルコトヲ得

第三條ニ選信管理局長ニ於テ三等郵便局長ノ任官辭令書ヲ傳達スルトキハ受書（書式）及身元引受證書（書式）本人非戶主ナルトキハ戶主ノ保證（書式）ヲ差出サシメ之ヲ本大臣ニ報告シ且採用ノ旨ヲ其地方長官及郡區長ニ通知スヘシ其免官ノトキ亦同シ

第四條ニ三等郵便局長ヲシテ爲替又ハ貯金ヲ取扱ハシムルトキハ選信管理局長ニ於テ別ニ定ムル規程ヲ保證品ヲ徵收スヘシ

第五條 被撰人ヨリ差出シタル書類及前條ノ保證品ハ選信管理局ニ保管スヘシ

○選信省鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補任用令（明治二十六年十月勅令）第九十五號

沿革略記

沿革略記 明治二十三年七月勅令第九十五號ヲ以テ郵便及電信局並郵便爲替貯金局書記補任用方ヲ定ム○二十六年十月勅令第九十五號ヲ以テ選信省鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補任用令ヲ制定シ二十三年勅令第九十五號ノ規定ニ依リ之ヲ施行ス

朕選信省鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セリ

第一條 選信省鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補任用令

試驗規則ニ依リ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ任用シタル判任官ニシテ滿四年以上其ノ職ニ在リタル者ハ文官普通試驗ヲ要セス選信部内ノ判任官ニ任用スルコトヲ得

第三條 本令施行ノ際鐵道廳驛長又ハ郵便及電信局書記補郵便爲替貯金管理所書記補ノ職ニ在ル者ハ選信省鐵道書記又ハ郵便電信書記郵便爲替貯金書記ニ任用スルコトヲ得

附 則

第四條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス
明治二十三年勅令第二百二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金局書記補試驗規則（明治二十三年八月十六號）
明治二十三年七月勅令第九十五號ニ依リ郵便及電信局並郵便爲替貯金局書記補試驗規則左ノ通り之ヲ定ム

郵便及電信局並郵便爲替貯金局書記補任用者取次

千五百五十九

鐵道書記補郵便電信書記補及郵便為替貯金局書記補試驗規則
 第一條 年齡滿十七歲以上四十五歲以下ニシテ一年以上鐵道郵便電信又ハ郵便為替貯金局
 業務ニ從事シタル者ハ書記補ニ試驗スルコトヲ得(二十六年通省令第二十號ヲ以テ)
 第二條 鐵道局郵便電信局郵便局電信局並ニ郵便為替貯金管理所ニ於テ書記補ノ任用ヲ要
 スル時ハ其局所長ハ第一條ニ適合スル者ニ就キ別ニ定ムル試驗手續ニ依リ試驗ヲ執行シ
 タル上其成績ヲ逓信大臣ニ申立ツベシ(二十六年通省令第二十號ニ依リテ改正ス)
 逓信大臣ハ逓信省文官普通試驗委員ニ下附シテ之ヲ點查セシメ合格者中所要ノ人員ヲ採
 用スルモノトス
 第三條 逓信省規定ノ電氣通信技術員養成規則ニ依リ電氣通信技術ノ傳習ヲ卒業シ六箇月
 以上其業務ニ從事シタル者ハ試驗ヲ要セス直ニ書記補ニ任用スルコトヲ得(二十六年通省
 令第二十號ニ依リテ改正ス)

○北海道集治監分監長及北海道廳典獄特別任用方 明治二十四年七月 勅令第百十三號

朕北海道集治監分監長及北海道廳典獄特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道集治監分監長及北海道廳典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ現ニ判任官六級以
 上ノ俸給ヲ受ケル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用ス
 ルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用シタル北海道集治監分監長及北海
 道廳典獄ハ高等試驗ヲ經ルニ非サレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

附則

第三條 本令ハ明治三十四年八月十六日ヨリ施行ス

第二十四年勅令
 第二十七號
 府縣參事官及典獄特別任用令
 明治二十三年十月
 勅令第百二十七號

○府縣參事官及典獄特別任用令 明治二十三年十月 勅令第百二十七號

朕府縣參事官及典獄特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣參事官典獄特別任用令

第一條 府縣參事官並典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官三等以上ノ現職ニ在ル者ニ
 限リ當分ノ內試驗ヲ要セス高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用シタル府縣參事官並典獄ハ高等試驗ヲ
 經ルニ非サレハ各他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

○郡區長ハ當分內務大臣ノ指定科目ニ依リ試驗ス 明治二十年七月 閣令第二十號

地方現今ノ情況ニ依リ郡區長ノ試驗ハ學術ニ偏セス實務ヲ旨トシテ專ラ其地ノ狀勢民情及
 利害ニ通曉スル者ヲ選任スヘキ必要アルヲ以テ郡區長ノ試驗科目ハ當分ノ內地方ノ實況ヲ
 斟酌シテ內務大臣ノ指定スル所ニ依ル
 但郡區長ハ高等試驗ヲ經タル者ニ非レハ他ノ高等官ニ轉スルコトヲ得ス

○郡區長試驗條規 內務省令第五號

府縣參事官及典獄特別任用令

郡區長ノ職試ニ關シ左ノ條規ヲ定ム
 第一條 郡區長ノ試驗ハ左ノ科目ヲ以テ內務省ニ於テ之ヲ行フ
 一 就職スヘキ地方ノ風土慣例及物産
 一 郡區長職務ニ必要ナル法令
 一 郡區長職務ニ關スル公文ノ立案
 第二條 郡區長ノ試驗ヲ受クルハ滿三十年以上ノ者タルヘシ但該地方ニ於テ五箇年以上奏
 任官又ハ郡區長ノ職ヲ奉シタル者ハ此限ニアラス
 第三條 試驗出願者ハ願書ニ就職スヘキ地名ヲ記入シ履歷書ヲ取添ヘ北海道廳又ハ府縣廳
 ヲ經テ試驗委員長ニ差出スヘシ
 第四條 試驗委員ハ內務大臣內務省ノ高等官若クハ他官廳ノ高等官ヨリ選テ之ヲ命シ又ハ
 囑託シ內務省總務局長ヲ以テ委員長トス
 第五條 試驗委員ハ必要アル場合ニ於テハ問題ヲ選定シテ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ
 該地方高等官三名以上ノ列席ニ於テ其應答ヲ爲サシムルコトヲ得
 第六條 試驗ノ手續ニ關スル細目ハ試驗委員長ノ定ムル所ニ依ル

○島司特別任用方明治二十六年十月
勅令第九十號

朕島司特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 島司ノ任用ニ就テハ明治二十三年勅令九號ヲ適用ス

○郡區長任用方明治二十三年二月
勅令第九號

朕郡區長任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二十四年勅令
 第三十七號
 現ニ郡區
 長任用スル
 以上ハ現ニ
 官ハ現ニ四
 級以上ノ俸
 給ヲ受クル
 者ニ限ル
 類ニ限ル
 勅令ハ本

第一條 郡區長ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官ニ五等以上ノ現職ニ在ルモノニ限り當分
 ノ内試驗ヲ要セス郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得
 第二條 郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ郡區長ニ任用シタル者他ノ道廳府縣ノ郡區長ニ轉
 任スルトキハ更ニ郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經ヘシ
 第三條 郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ任用シタル郡區長ハ高等試驗ヲ經ルニアラザレハ
 他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

○郡區長府縣參事官典獄警視特別任用ノ制限明治二十四年十一月
勅令第二百三十七號

朕郡區長府縣參事官典獄警視特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 明治二十三年二月勅令第九號第一條ニ依リ郡區長ニ任用スル判任官ハ現ニ五級以
 上ノ俸給ヲ受クル者ニ限ル
 第二條 明治二十三年十月勅令第二百二十七號第一條ニ依リ府縣參事官並典獄ニ任用スル
 判任官ハ現ニ四級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限ル
 第三條 明治二十四年四月勅令第三十七號第一條ニ依リ警察署長ニ補スヘキ警視ニ任用ス
 ル判任官ハ現ニ四級以上ノ俸級ヲ受クル者ニ限ル

○官吏ノ勤績方明治二十六年十月
勅令第九十八號

朕官吏ノ勤績ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
廢官廢廳若クハ官名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在ル者即日他官ニ任セラレ、トキハ勤
績者トス

○貴族院衆議院守衛長及守衛番長特別任用方明治二十六年十一月
勅令第二百九號

朕貴族院竝ニ衆議院守衛長及守衛番長特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
貴族院竝ニ衆議院ノ守衛奉職滿五年以上ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者ハ試験ヲ要セス文官普
通試験委員ノ銓衡ヲ經テ貴族院又ハ衆議院ノ守衛長若クハ守衛番長ニ任用スルコトヲ得
第一回帝國議會會期前又ハ其ノ會期中ニ貴族院又ハ衆議院ノ守衛ヲ命セラレ引續キ其ノ職
ニ在ル者ハ其ノ奉職年數ニ拘ラズ前項ニ依ルコトヲ得

○判事檢事登用試験規則明治廿四年五月
司法省令第三號

判事檢事登用試験規則左ノ通相定ム
判事檢事登用試験規則

第一章 試験委員

第一條 判事檢事登用試験委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 判事檢事登用試験委員長及委員ハ大審院控訴院ノ判事檢事司法省高等官ノ中ヨリ
試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第三條 判事檢事登用試験委員長ハ委員ヲ監督シ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第四條 試験委員附屬ノ書記ハ司法屬又ハ裁判所書記ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ
命ス

第二章 受験資格

第五條 判事檢事登用試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル
者ニ限ル(二十六年司法省令第十六號)
一 官立學校及司法大臣ニ於テ指定シタル公私立ノ學校ニ於テ三年以上法律學ヲ修メタ
ル證書ヲ有スル者
二 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

第六條 裁判所構成法第六十六條ニ該ル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三章 第一回試験

第七條 第一回試験ハ司法省ニ於テ之ヲ行フ試験ノ期日ハ試験委員長之ヲ定メ官報ヲ以テ
公告ス

第八條 試験志願者ハ其志願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

一 履歷書

二 身分年齢及兵役ニ關スル證明書

二十六年司法
省令第十六號
一 官立學校
及司法大臣
ニ於テ指定
シタル
一 官立學校
及司法大臣
ニ於テ指定
シタル

三 第五條ニ定メタル要件ノ證明書

試験志願者ハ試験手数料トシテ金拾圓ヲ納ムヘシ但其手数料ハ登記印紙ヲ用井之ヲ志願書ニ貼付スヘシ(二十六年司法省令第十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

手数料ハ志願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セス(二十六年司法省令第十六號ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第九條 試験ハ受験者ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トシ筆記口術ノ二様トス

第十條 筆記試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ各法ニ就キ之ヲ施行ス

第十一條 試験委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試験ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ

第十二條 口述試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

第十三條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試験口述試験ノ成績ニ對スル委員過半數ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十四條 志願者口述試験ニ闕席シタルトキハ試験ハ成立タサルモノトス

第十五條 試験委員長ハ及第者ノ氏名及其試験ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十六條 帝國大學法律科卒業生ニシテ司法官ノ任用ヲ望ム者ハ第八條ノ規程ヲ準用シ志願書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第四章 實地修習

第十七條 試補ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ一名若ハ數名ノ判事又ハ檢事ニ附屬シテ事務ヲ修習スヘシ

第十八條 修習事務直接ノ指揮監督ハ地方裁判所長之ヲ爲ス檢事ノ事務ヲ修習スルトキハ檢事正之ヲ爲ス

裁判所長若ハ檢事正ハ每年末ニ試補ノ職務上及職務外ノ行狀並執務ニ關ル成績ノ證明書ヲ作り控訴院長檢事長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十九條 試補ハ修習目錄ヲ作り其取扱ヒタル事件ヲ記載スヘシ

此目錄ハ毎月直接指揮監督者ニ差出シ檢閲ヲ受クヘシ
第二十條 試補ノ疾病又ハ兵役履行ノ爲メ修習ヲ缺キタル日數一箇年間二箇月以内ハ修習日數ニ算入ス

賜暇其他ノ原因ニ由リ修習ヲ缺キタル日數一箇年間一箇月以内亦同シ

第二十一條 第一項第二項ノ場合併起スルトキハ通計シテ二箇月以内ニ非サレハ算入スルコトヲ得ス
第二十一條 試補ノ直接指揮監督者ハ試補職務上ノ義務ヲ怠リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其身分ニ適セサル行狀アルトキハ之ヲ諭告スヘシ此場合ニ於テハ指揮監督者ハ諭告ヲ爲シタルコトヲ試補ノ履歷ニ記入スヘシ

第二十二條 試補職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不充分ニシテ第二回試験ニ及第ノ見込ナキトキハ直接指揮監督者ハ控訴院長檢事長ヲ經由

シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ試補ヲ免スルコトアルヘシ

第五章 第二回試験

第二十三條 第二回試験ハ控訴院ニ於テ之ヲ行フ

試験ノ場所ハ司法大臣之ヲ定メ試験ノ期日ハ試験委員長之ヲ定ム

第二十四條 試補第二回試験ヲ受クルニハ直接指揮監督者ヲ經由シテ志願書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

志願書ニハ修習目録ト陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコトヲ證明スル書面トヲ添フヘシ

第二十五條 司法大臣ハ第二回試験ヲ受クヘキ試補ノ氏名ヲ試験委員長ニ通知シ試験ヲ行ハシム

第二十六條 第二回試験ハ受験者ノ實務ニ習熟シタルヤ否ヲ試験スルヲ以テ主タル目的トシ筆記口述ノ二様トス

第二十七條 試験委員ハ試補ニ筆記試験ノ爲メ二件以上ノ訴訟記録ヲ付與スヘシ

第二十八條 受験者ハ付與セラレタル訴訟記録ニ就キ事實及理由ヲ詳示シタル判決案ヲ答案トシテ差出スヘシ

答案ハ二十日ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ若シ此期間内ニ答案ヲ差出サ、ルトキハ試験ハ成立タサルモノトス

第二十九條 口述試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ二科目ニ就キ之ヲ施行ス

又訴訟記録ニ就キ問ヲ發シ之ニ答ヘシムヘシ其記録ハ試験期日ノ三日前ニ之ヲ付與ス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ司法大臣ハ試験委員長ノ報告ニ因リ試補ヲ免ス

一 第二回試験ニ及第セサルトキ

二 第二回試験ノ成立タサルトキ

第三十一條 前條第二ノ場合ニ於テ試補已ムテ得サル事故アリシコトヲ證明シ試験委員之ヲ正當ト認メタルトキハ其旨ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其試補ニ一回ヲ限リ次期ノ試験マテ引續キ修習ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第三十二條 第一回試験ニ關ル第十一條及第十三條乃至第十五條ノ規程ハ第二回試験ニモ亦之ヲ適用ス

○

○ 裁判所書記登用試験規則 明治二十四年五月

司法省令第四號

裁判所書記登用試験規則左ノ通相定ム

裁判所書記登用試験規則

第一章 試験

第一條 裁判所書記登用試験ハ文官試験ニ關ル勅令ノ外本則ノ規程ニ從フ

第二條 試験ハ各控訴院ニ於テ之ヲ行フ

第三條 試験委員ハ控訴院判事檢察事書記長又ハ其管内地方裁判所ノ判事檢察事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

試験委員長ハ委員中官等最モ高キ者ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 試験ハ作文筆寫書取算術簿記ノ外民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中ニ就キ之ヲ施行ス

第五條 試験委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ地方裁判所ニ於テ筆記試験ヲ受ケシムルコトヲ得此場合ニ於テ試験問題ノ答案ハ其裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシム

第六條 試験委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試験ノ爲メ受験者ヲ呼出スヘシ

第七條 受験者口述試験ニ關席シタルトキハ試験ハ成立タサルモノトス

第八條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員長及試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第九條 試験委員長ハ及第者ノ氏名及其試験ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二章 實地修習

第十條 試験ニ及第シタル者ハ裁判所書記見習ヲ命セラレ、コトヲ得裁判所書記見習ハ區裁判所及地方裁判所並其檢察局ニ於テ實地修習ヲ爲スヘシ

第十一條 實地修習ノ順序ハ控訴院長檢察事協議シテ之ヲ定ム

第十二條 實地修習ノ指揮監督ハ地方裁判所長若ハ檢察事正又ハ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事若ハ檢察事之ヲ爲ス

指揮監督者ハ修習ノ事務ヲ直接ニ指示スヘキ官吏ヲ定ムヘシ

第十三條 裁判所書記見習職務上ノ義務ヲ怠リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其身分ニ適セサル行狀アルトキハ指揮監督者之ヲ諭告スヘシ

第十四條 裁判所書記見習職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分ナリト認ムルトキハ指揮監督者ハ控訴院長檢察事長ニ之ヲ報告スヘシ

第十五條 指揮監督者ハ裁判所書記見習其指揮監督ニ係ル修習ヲ終リタルトキハ修習ニ關ル證明書ヲ作り修習ノ成績並職務上及職務外ノ行狀ヲ記載シテ之ヲ控訴院長檢察事長ニ差出スヘシ

若シ行狀ニ就キ諭告シタルコトアルトキハ其旨ヲ證明書ニ附記スヘシ

控訴院長檢察事長ハ證明書ニ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十六條 本章ノ規程ハ試験ヲ經スシテ裁判所書記見習トナリタル者ノ實地修習ニモ亦之ヲ適用ス

○ 執達吏登用規則 二十三年八月
明治二十三年二月法律第六號裁判所構成法第九十五條及第九十九條ニ依リ執達吏登用規則
左ノ通相定ム

執達吏登用規則

執達吏登用規則

- 第一條 執達吏ニ任セラル、ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス
 - 第一 年齢滿二十五歳以上ナルコト
 - 第二 陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコト
 - 第三 身體健全ナルコト
 - 第四 家計ノ整理シタルコト
 - 第五 品行方正ナルコト
 - 第六 試験ニ及第シタルコト
- 第二條 左ニ掲クル者ハ執達吏ニ任セラル、コトヲ得ス
 - 第一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ非ス
 - 第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
 - 第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免カレサル者
 - 第四 懲戒ノ處分ニ由リ免職セラレタル者
- 第三條 執達吏ノ試験ヲ受ケントスル者ハ少クトモ六箇月間區裁判所ニ於テ主トシテ執達吏ノ職務ヲ修習シ傍ラ書記ノ職務ヲ修習スルコトヲ要ス
- 第四條 職務修習ヲ爲ス者ハ職務上ノ秘密ヲ漏洩スヘカラス
- 第五條 職務修習ヲ願フニハ願書ニ兵役ニ關ル證書及履歷書ヲ添付シ之ヲ控訴院長ニ差出シ其許可ヲ受クヘシ
- 第六條 職務修習ノ許可ヲ爲シタルトキハ控訴院長ハ修習者ノ屬スヘキ區裁判所ヲ指定スヘシ
- 第七條 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ授業ヲ擔當スヘキ執達吏及裁判所書記ヲ選定シ職務ノ訓導ヲ爲サシムヘシ
- 第八條 控訴院長ハ修習者ノ行狀執達吏トナルニ不適當ナリト認ムルトキハ其修習ヲ止ムルコトヲ得
- 第九條 職務修習者試験ヲ受ケントスルニハ第一條第一乃至第五ノ諸件ヲ具備シタルコト及第二條ノ諸件ニ觸レサルコトヲ證明シ並修習ノ日數ヲ記入シタル願書ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ヲ經由シテ控訴院長ニ差出スヘシ
- 第十條 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ前項ノ願書ニ意見ヲ付スヘシ

- 第十一條 控訴院長ハ書類ヲ調査シ試験ノ許可ヲ定ムヘシ
- 第十二條 試験ハ地方裁判所ニ於テ毎年一回之ヲ行フ
- 第十三條 控訴院長ハ書類ヲ調査シ試験ノ許可ヲ定ムヘシ
- 第十四條 試験委員長及試験委員ハ地方裁判所及區裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス
- 第十五條 控訴院長ハ試験ヲ受クヘキ修習者ノ名簿ヲ試験委員長ニ送付スヘシ
- 第十六條 前項ノ送付アリタルトキハ試験委員長ハ試験期日ヲ定メ之ヲ修習者ニ告知スヘシ
- 第十七條 試験ハ筆記試験ニ及第シタル者ニ之ヲ行フ
- 第十八條 口述試験ハ筆記試験ニ及第シタル者ニ之ヲ行フ
- 第十九條 第一 民事訴訟法及治罪法ノ中書類送達及執行ニ關ル規程
- 第二 執達吏ニ關ル諸規則
- 第三 算術加減乗除分數比例
- 第四 讀書筆寫
- 第十五條 筆記試験問題ノ答案ハ裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシム試験委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ區裁判所ニ於テ筆記試験問題ノ答案ヲ作ラシムルコトヲ得
- 第十六條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試験口述試験ノ成績ニ對スル委員過半数ノ意見ニ從テ之ヲ決ス
- 第十七條 及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ
- 第十八條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員長及試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス
- 第十九條 試験ニ落第シタル者ハ更ニ三ヶ月以上修習ヲ爲スニ非サレハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第二十條 不正ノ方法ヲ以テ及第ヲ企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス其及第シタル者ハ及第ノ效ナキモノトス
- 第二十一條 試験委員ハ試験ノ問題及成績ヲ記録ニ記載スヘシ
- 第二十二條 試験委員長ハ及第者ノ氏名及其試験成績ヲ控訴院長ニ報告スヘシ
- 第二十三條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス執達吏ニ任セラル、コトヲ得

巡查奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ「文官試驗試補及見習規則第二條」ノ規定ニ據ラス文官普通試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ警部「警部補」ニ任用スルコトヲ得但試驗ヲ經スシテ任用シタル警部「警部補」ハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

○看守現職ノ者看守長同副長ニ任用方明治二十三年七月勅令第四百四十六號

朕看守奉職滿五年以上ノ者ヲ看守長看守副長ニ任用スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム看守奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ「文官試驗試補及見習規則第二條」ノ規定ニ據ラス文官普通試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ看守長看守副長ニ任用スルトヲ得但試驗ヲ經スシテ任用シタル看守長看守副長ハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

○朝鮮國在勤警部巡查任用及支給規則明治二十五年二月勅令第十四號

朕茲ニ朝鮮國在勤警部巡查任用及支給規則ヲ裁可ス

第一條 朝鮮國在勤警部及巡查ハ外務大臣之ヲ任命ス
第二條 朝鮮國在勤警部ノ任用ハ一般判任官ノ任用法ニ從テ

朝鮮國在勤巡查ノ任用法ハ外務大臣之ヲ定ム

第三條 朝鮮國在勤警部及巡查ハ同國駐劄帝國公使又ハ同國各地駐在帝國領事又ハ其代理者ノ指揮監督ニ屬ス

第四條 朝鮮國在勤警部及巡查ハ引續三箇年間勤務スヘキモノトス傷痕若クハ疾病ニシテ職務ニ從事スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ外務大臣ハ前項ノ期限ニ拘ラス其辭職ヲ許可スルコトヲ得

第五條 朝鮮國在勤警部巡查三箇年以上勤務シタルトキハ外務大臣ハ公務差支ナキ場合ニ限り本人ノ願ニ依リ往復日數ヲ除キ警部ハ三箇月巡查ハ二箇月以内賜暇歸朝ヲ許可スルコトヲ得

第六條 朝鮮國在勤巡查ニシテ其職務執行ニ關スル規則又ハ上官ノ命令ニ違背シ又ハ職務上怠慢アルトキハ公使又ハ領事ニ於テ其情狀ヲ審察シ月俸百分ノ一以上一箇月分以下ノ罰俸ヲ科ス但犯狀最モ輕キ者ハ譴責ニ止ム

犯狀重クシテ公使又ハ領事ニ於テ其職ヲ免スルヲ相當ト認メタルトキハ其情狀ヲ外務大臣ニ具申スヘシ

第七條 前條ニ依リ罰俸ヲ科シタルトキハ月俸三分ノ一以内ノ額ヲ毎月俸給ヨリ控除シテ完納セシム

罰俸完納前ニ於テ本人其職ヲ免セラレ又ハ死亡シタルトキハ之ヲ追徴スルコトナシ

第八條 朝鮮國在勤警部ノ月俸ハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

朝鮮國在勤巡查ノ月俸ハ八圓乃至拾五圓トス但俸給支給方ハ前項ニ同シ

第九條 朝鮮國在勤警部及巡查ニハ月俸ノ外任地着翌日ヨリ任地出發前日マテ在勤月手當

ヲ給ス其金額左ノ如シ

警部 一箇月貳拾圓乃至三拾圓

巡查 一箇月拾五圓乃至貳拾圓

第十條 臨時ノ須要ニ依リ朝鮮國在勤巡查ニ代用スル傭員ニハ月俸拾圓以内ヲ給シ在勤手當ヲ給セス

第十一條 朝鮮國在勤警部及巡查ノ旅費ハ明治二十年閣令第十二號外國旅費規則ニ依ル但巡查ハ總テ傭員ノ例ニ倣フ

第十二條 旅費ハ警部及巡查ノ赴任、官用歸朝、賜暇歸朝、任所替其他官務旅行ノトキニ限リ給スルモノトス

第十三條 朝鮮國在勤巡查又ハ其遺族ニハ左ノ諸項ニ依テ給助ヲ爲ス

第一 勤續四年ニシテ退職スル者ハ一時金貳拾五圓ヲ給ス四年以上九年マテハ一年毎

ニ金拾圓ヲ増給ス勤續十年ニシテ退職ノ者ニハ一時金百圓ヲ給シ十年以上ハ一年毎

ニ金拾五圓ヲ増給ス

同上ノ年限間勤續シテ死亡シタルトキハ各同上ノ金額ヲ其遺族ニ給ス

第二 職務ノ爲メ負傷又ハ疾病ニ罹ル者ハ傷痕又ハ病症ノ輕重ニ依リ適宜療治料ヲ給

ス

第三 職務ノ爲メ負傷シ終身不具トナリタル者ハ一時金百圓以上百五拾圓以下ニ於テ

適宜之ヲ給ス

第四 職務ノ爲メ死亡シタルトキハ第一項賜金ノ外一時金貳百圓ヲ其遺族ニ給ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ給助ヲ爲サス

第一 他ノ報酬ヲ受クヘキ官職ニ轉シタルトキ

第二 懲罰ニ依リ免職セラレタルトキ

第十四條 明治十九年外務省令第二號朝鮮國在勤巡查給與規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○陸軍將校分限令 明治二十一年十二月 勅令第九十一號

陸海軍將校分限令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍將校分限令

第一條 將校ハ終身其官ヲ保有シ其制服ヲ著シ其官ニ對スル禮遇ヲ享ク之ヲ將校ノ分限トス

第二條 將校ハ左ニ掲クル事項ノ一ニ因ルニ非レハ其分限ヲ失フコトナシ

第一 本人ノ請願ヲ許容シ其官ヲ免セラレタルトキ

第二 日本人タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

第三 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四 剝官ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第五 禁錮ニ處セラレ其官ヲ失ヒタルトキ

陸軍將校分限令

千百七十九

第二十四年勅令第九十一號
陸軍將校分限令
陸海軍將校分限令
陸軍將校分限令
陸海軍將校分限令
陸軍將校分限令
陸海軍將校分限令
陸軍將校分限令
陸海軍將校分限令

第六 武官タルノ本分ニ背キ勅裁ニ依リ免官トナリタルトキ

第三條 將校ノ位置ヲ分ツコト左ノ如シ

第一 現役

第二 豫備

第三 後備

第四 退役

第四條 現役トハ現ニ軍務ヲ奉スル者修學ヲ命セラレタル者及陸海軍將校各其部内ノ文官ニ任セラレタル者ヲ云フ休職及停職ニ在ル者ハ現役ニ準ス
休職トハ左ニ掲クル事項ノ一ニ因リ職務ナキ者ヲ云フ

一 解隊

二 廢職

三 定員改正

四 滿期解任

五 俘虜トナリタル者歸シ他員已ニ代リテ其職ニ在ルトキ

六 特別ノ職務ヲ終ヘ又ハ修學滿期ニシテ就職ノ命ナキトキ

七 傷痍若クハ疾病六箇月ニ至リ尙恢復ノ候ナキトキ但本人ノ請願或ハ職務ニ因リ代

員ヲ必要トスルトキハ六箇月ヲ待ツノ限ニアラス

八 本人ノ請願ニ依リ修學ヲ許容シタルトキ

九 陸海軍上長官士官各其部内ノ文官ニ專任シタルトキ

停職トハ其行爲懲戒スヘキコトアリ其情狀稍輕ク在職又ハ就職ヲ停メラル、者ヲ云フ但
停職者ハ一箇年ノ後ニ非レハ就職スルコトヲ得ズ

第五條 豫備トハ年齡滿限ニ至ラスシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ因リ現役ヲ退キタル者及一
年志願兵ヨリ士官ニ任シタル者ヲ云フ

第一 恩給令ニ依リ旨ヲ諭サレ現役ヲ退キタルトキ

第二 休職ニ入り五年ニ至リ就職セサルトキ

但第四條第二項ノ第八第九ニ該ル者ハ此限ニアラス

第三 停職ニ入り二年ニ至リ就職セサルトキ

第四 陸海軍各部外ノ文官ニ專任シタルトキ

第五 貴族院令第四條ニ依リ貴族院議員ト爲リタルトキ(二十二年勅令第二百二十
五號ヲ以テ本項追加)

第六條 後備トハ年齡滿限ニ至リ現役ヲ退キタル者及豫備滿期ニ至リタル者ヲ云フ

豫備後備ノ服役年期ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 退役トハ後備滿期ニ至リタル者又ハ傷痍疾病ノ爲メ永久服役ニ堪ヘスシテ現役又

ハ豫備又ハ後備ヲ退キタル者ヲ云フ

第八條 豫備後備者ハ召集ニ應スヘキモノトス

第九條 本令ハ將校相當官ニ適用ス

附則

第十條 陸軍將校免黜條例將官退官令及海軍將校准將校免黜條例ハ廢止ス

第十一條 陸軍將校免黜條例「及海軍將校准將校免黜條例」ニ依リ待命若クハ非職タリシ者ノ位置ハ左ノ通之ヲ定ムヘシ

一 待命ノ者ハ休職トス但陸軍將官ニシテ現ニ陸軍部外ノ文官ニ專任ノ者ハ豫備トス

二 非職ノ者ハ休職トシ其停職解職ニ因テ非職タリシ者ハ停職トシ其年數ハ各非職タリシ當日ヨリ起算ス但定期ノ年數ヲ越エタル者ハ豫備トス

三 「海軍將校ニシテ現ニ海軍部外ノ文官ニ專任ノ者ハ豫備トス」

第十二條 「海軍將校ニシテ年齡滿限ニ依リテ退職罷役ノ者ハ後備トス」

○海軍將校分限令 明治二十四年七月 勅令第七十九號

朕陸海軍將校分限令中海軍將校分限ニ關スル件ヲ廢シ海軍將校分限令制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍將校分限令

第一條 海軍將校トハ大將中將少將大佐少佐大尉少尉ヲ云フ

第二條 將校ハ終身其官ヲ保有シ其制服ヲ著シ其官ニ對スル禮遇ヲ享ク之ヲ將校ノ分限トス

第三條 將校ハ左ニ掲クル事項ノ一ニ依ルニ非レハ其分限ヲ失フコトナシ

第一 本人ノ請願ヲ許容シ其官ヲ免セラレタルトキ

第二 日本人タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

第三 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四 剝官ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第五 禁錮ニ處セラレ其官ヲ失ヒタルトキ

第六 武官タルノ本分ニ背キ勅裁ニ依リ免官トナリタルトキ

第四條 將校ノ位置ヲ分ツコト左ノ如シ

第一 現役

第二 豫備

第三 後備

第四 退役

第五條 現役トハ現ニ軍務ヲ奉スル者修學ヲ命セラレタル者將官海軍部内ノ文官ニ任セラレタル者及待命者ヲ云フ休職停職ニ在ル者ハ現役ニ準ス

待命トハ現職ナクシテ命ヲ待ツ者ヲ云フ

休職トハ左ニ掲クル事項ノ一ニ依リ職務ナキ者ヲ云フ

一 待命一箇年ヲ過タル者

二 傷痍若クハ疾病六箇月ニ至リ尙ホ快復ノ候ナキ者

三 本人ノ請願ニ依リ修學ヲ許容シタル者

- 四 前項ノ修學者ニシテ修學滿期ノ後就職ノ命ナキ者
- 五 上長官士官海軍部内ノ文官ニ專任シタルトキ
 停職トハ其行爲懲戒スヘキコトアリ其情狀稍輕ク在職又ハ就職ヲ停メラル、者ヲ云フ但
 停職者ハ一箇年ノ後ニ非レハ就職スルコトヲ得ス
- 第六條 豫備トハ年齢滿限ニ至ラヌシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ依リ現役ヲ退キタル者ヲ云
 フ
 - 第一 明治二十三年六月勅令第九十九號第三條ニ依リ現役ヲ退キタルトキ
 - 第二 休職ニ入り一箇年ニ至リ就職セサルトキ但第五條第三項ノ第三ニ該ル者ハ此限
 ニアラス
 - 第三 停職ニ入り一箇年半ニ至リ就職セサルトキ
 - 第四 海軍部外ノ文官ニ專任シタルトキ
 - 第五 貴族院令第四條第五條ニ依リ貴族院議員ト爲リタルトキ
 - 第七條 後備トハ年齢滿限ニ至リ現役ヲ退キタル者及豫備滿期ニ至リタル者ヲ云フ
 豫備後備ノ服役年期ハ別ニ之ヲ定ム
 - 第八條 退役トハ後備滿期ニ至リタル者又ハ傷痍疾病ノ爲メ永久服役ニ堪ヘスシテ現役又
 ハ豫備又ハ後備ヲ退キタル者ヲ云フ
 - 第九條 豫備後備者ハ召集ニ應スヘキモノトス
 - 第十條 本令ハ將校相當官ニ適用ス

附則

第十一條 本令公布以前休職ニ入り一箇年ヲ過キタルモノハ本令公布ノ日ヨリ豫備トシ其
 他ハ休職ニ入りタル日ヨリ起算シ一箇年ニ至リ豫備ニ入ルモノトス

○官吏非職條例明治十七年一月
第三號達

官吏非職條例左ノ通相定候條此旨相達候事

官吏非職條例

- 第一條 官吏判任官以上并ニ出仕
御用掛モ之ニ準ス 奉職中各官廳ノ事務張弛其他疾病等ノ事故ニ因リ本屬長
 官ハ其僚屬ノ官吏ニ非職ヲ命スルコトヲ得但勅任官ノ非職ハ上裁ニ依リ奏任官ハ「太政
 大臣」ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス(十七年第三十九號達ヲ以テ奉職
中ノ下廢廳云々ノ六字ヲ刪ル)
- 第二條 非職員ハ其本官ヲ奉シテ常ニ其職務ニ從事セス其他總テ在職官吏ニ異ナルコトナ
 シ
- 第三條 本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ非職員ヲシテ更ニ其職務ニ從事セシムル
 事ヲ得
- 非職員復職スルトキ勅任官ハ上裁ニ依リ奏任官ハ「太政大臣」ノ認可ヲ經テ之ヲ命ス
- 第四條 非職ハ三年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

第五條 (二十四年勅令第二十三號ヲ以テ本條ヲ削除ス但シ明治二十四年四月一日現在ノ非職員ニハ其非職年限内仍ホ現俸四分ノ一ヲ支給ス)

第六條 廢廳廢官ノ際御用滞在ヲ命スル者アルトキハ本條例ニ準據ス(十七年第三十九號ヲ以テ追加)

第七條 非職員ハ特ニ本屬長官ノ許可ヲ得テ地方病院學校及農工商陸海運輸等會社ノ業務ニ從事シ其役員ト爲リ又ハ商業ヲ營ムコトヲ得但此場合ニ於テニ第五條ノ俸給ヲ支給セ

ス(二十二年勅令第三百一號ヲ以テ改正シ二十三年勅令第三百九號ヲ以テ復タ之ヲ改正ス)

本屬長官ハ其非職員ノ勅任官ニ係ルモノハ上裁ニ依リ奏任官ニ係ルモノハ「太政大臣」ノ認可ヲ經テ之ヲ許可ス(十七年第七十七號)

(達ヲ以テ本條追加)

第八條 (十七年第七十七號達ヲ以テ追加シ二十三年勅令第三百九號ヲ以テ削除ス)

○非職官吏俸給下渡轉居及商業許可 閣令第十九二月

非職官吏ノ俸給下渡住居移轉及商業ニ關シ左ノ通之ヲ定ム

第一條 「凡ソ非職官吏」ノ俸給ハ大藏省ニ於テ下渡スヘシ」

第二條 本屬長官ハ非職官吏ノ官等「俸給」氏名住所非職ノ年月日等ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第三條 非職官吏ハ本屬長官ニ届出テ本屬官廳所在ノ地ノ外ニ往居スルコトヲ得

第四條 本屬長官前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ大藏大臣ニ通知シ大藏大臣之ヲ地方官

ニ通知シ該廳ヲ經由シテ「俸給」ノ下渡ヲ爲スヘシ

第五條 非職官吏移轉地ニ到着シタルトキハ其住所ヲ本屬長官及地方官ニ届出ヘシ嗣

後更ニ其住所ヲ移轉スルトキモ亦同シ

第六條 非職官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得テ商業ヲ營ムコトヲ得

○技術官休職令 明治二十三年十二月 勅令第二百八十六號

朕技術官ノ休職ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

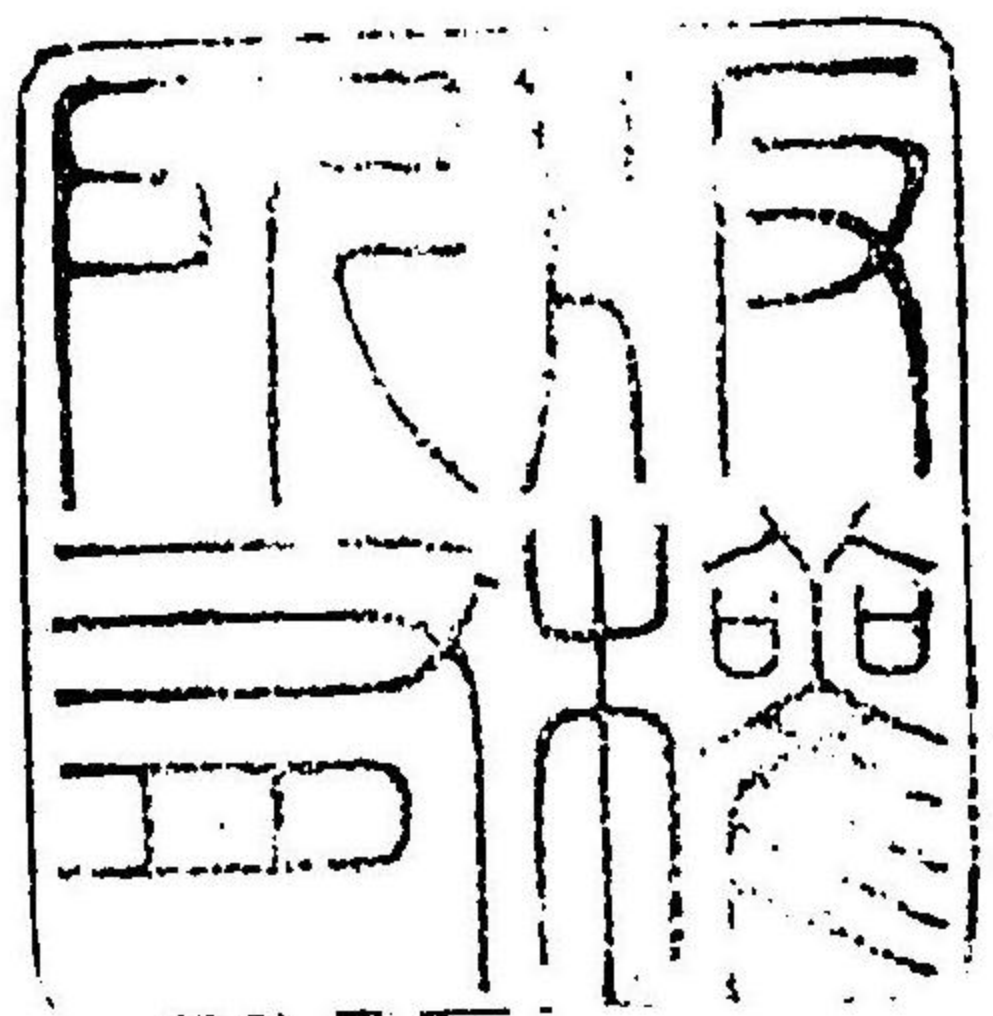
第一條 技術官ノ休職ハ一年ヲ一期トシ期滿レハ其官ヲ免ス

第二條 技術官ノ休職ニ關シ特別ノ規定ナキモノハ總テ官吏非職ノ例ニ依ル

第三條 本令ハ明治二十四年二月一日ヨリ施行ス現ニ休職中ノ者ノ休職期限モ亦同日

ヨリ起算ス

明治二十七年六月二十日印刷
明治二十七年六月二十三日發行



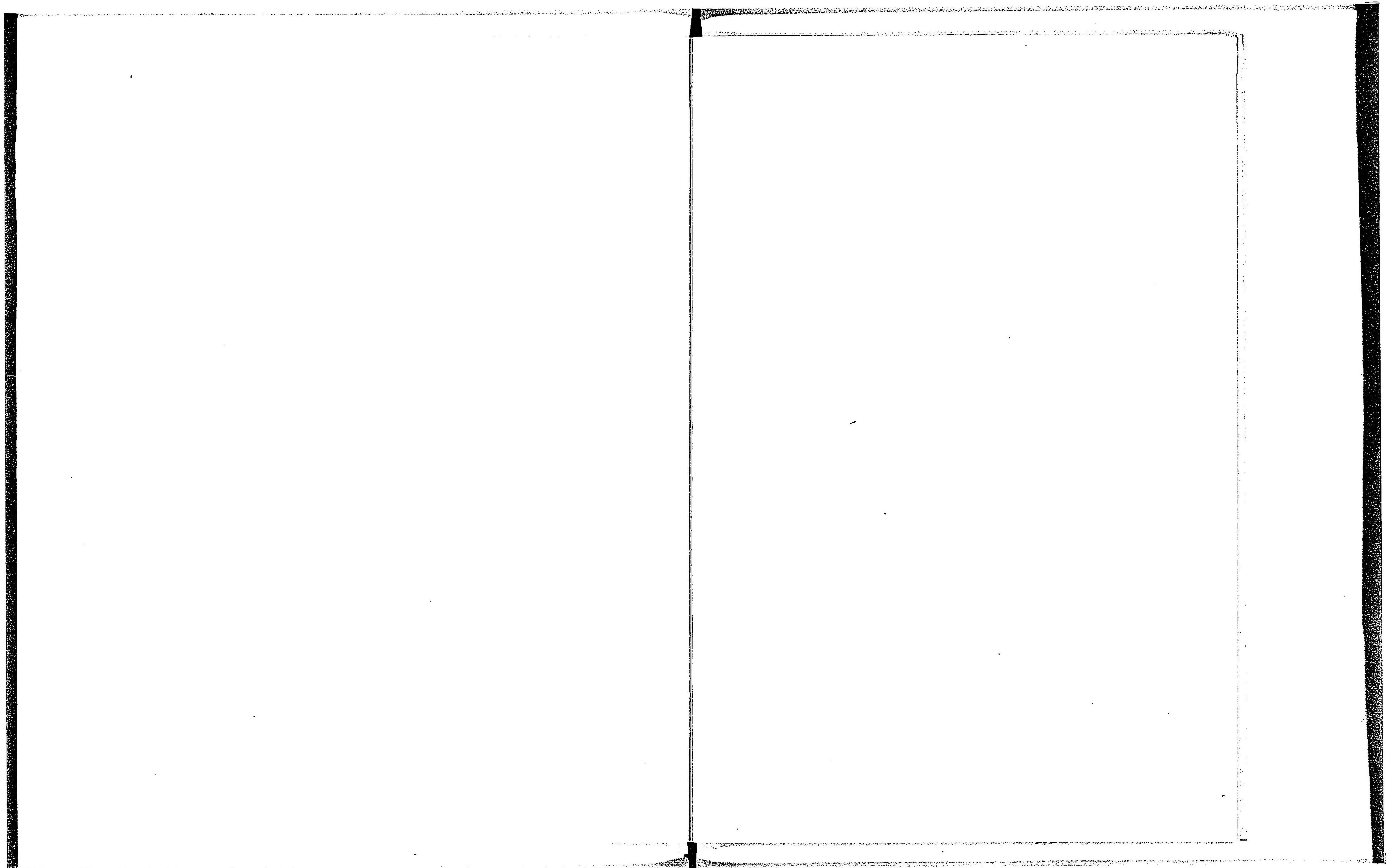
法制局

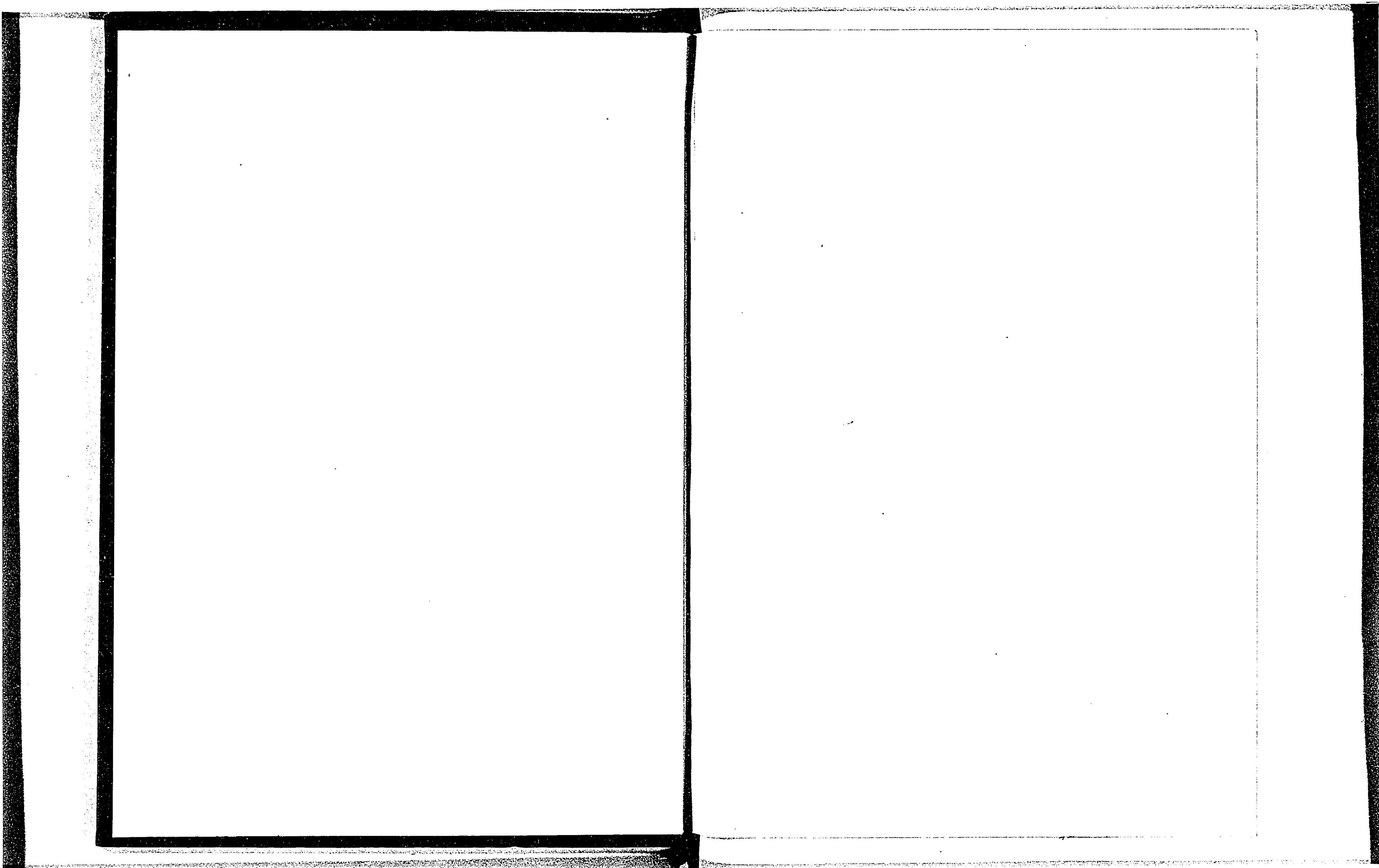
神田區錦町三丁目八番地

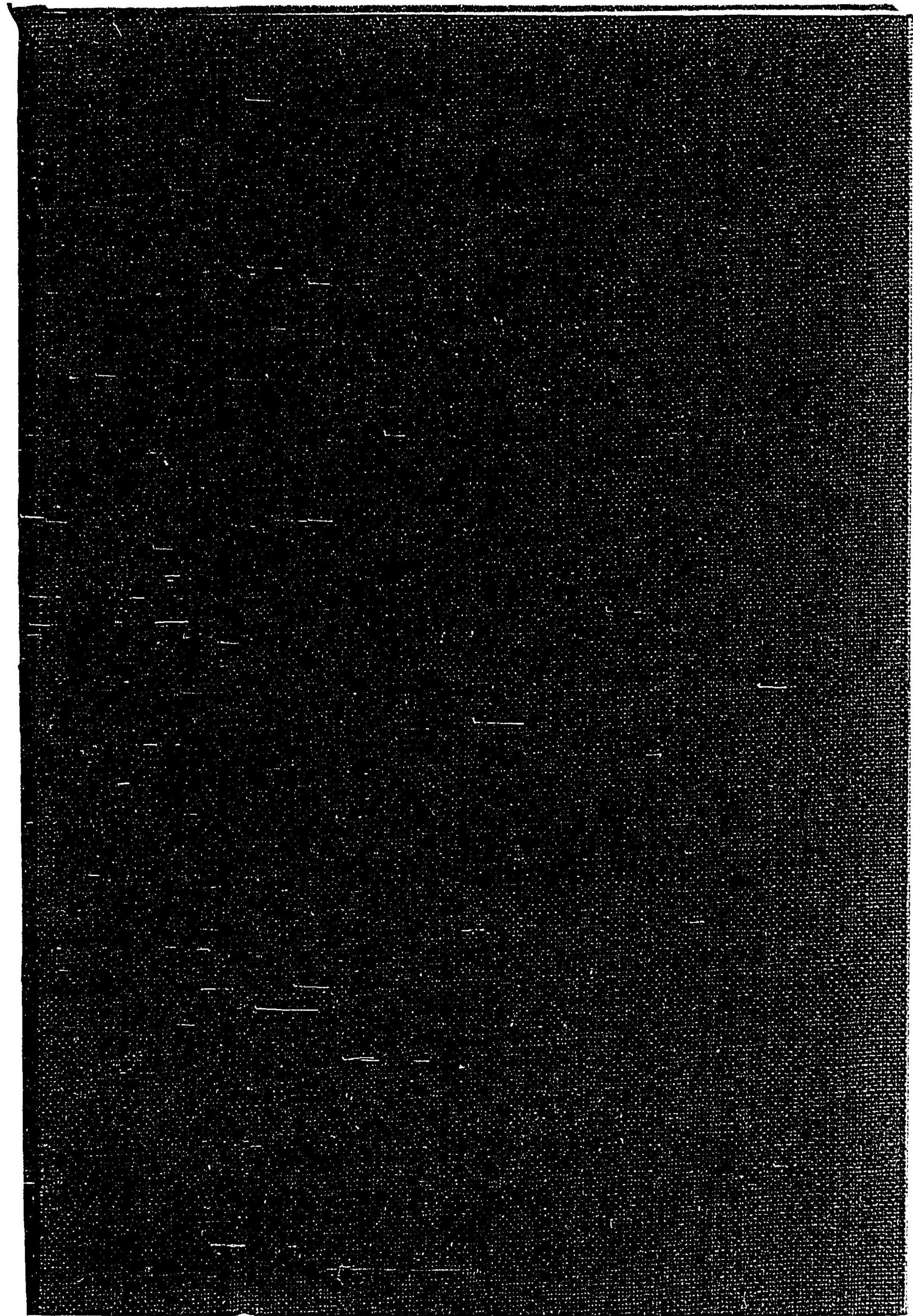
發印
行刷
者兼
八尾新助

印刷所
八尾活版所

EX 3011







031113-015-7

CZ-3-09

法規提要

法制局

M18-36

BBC-0833



